

2020年8月22日 14時30分～16時

都市工学専門 (専攻分野：都市計画)

- (1) 「都市工学専門1」(p.3)と「都市工学専門2」(p.4)の両方に解答しなさい。
- (2) 答えは「都市工学専門1」と「都市工学専門2」でそれぞれ別々の pdf ファイルとすること。
- (3) 「都市工学専門1」と「都市工学専門2」のそれぞれの解答用紙の所定の欄に、科目・問題名(「都市工学専門1」または「都市工学専門2」)、受験番号を記入しなさい。受験番号以外に受験者を特定可能な事項(氏名など)を記入してはならない。
- (4) 答えは試験終了時刻30分前(15時30分)から下記の答え提出サイトで提出できる。試験終了時刻10分後(16時10分)までに提出を完了すること。アップロードの手順については次ページを参照のこと。

答案提出サイト(都市工学専門):

<https://>【以下略】

- (5) 問題(このファイル)と、解答に関わる中間生成物は、紙か電子ファイルかに関わらず、答案アップロード完了後直ちにすべて削除あるいは破棄すること。
- (6) 解答用紙と提出したファイルは、指示があるまで保管しておき、指示があり次第直ちにすべて削除あるいは破棄すること。

答案のアップロード手順

【略】

都市工学専門 1

日本の人口 200 万人程度の政令指定都市とその周辺に位置する 8 つの自治体（いずれも人口 10 万人程度）で構成される人口 280 万人程度の独立した仮想都市圏を考える。この都市圏の人口は安定しているが、政令指定都市の人口は減少し、周辺 8 自治体の人口が増加する傾向にある。この都市圏は 1 つの都市計画区域に指定されており、その周囲は森林で都市計画区域外である。都市計画審議会は 9 つの自治体毎とこの都市圏が位置する県に設置されている。

この都市圏で、10 年後の 2030 年を目標年次とし、土地利用、交通、緑地・環境、都市デザイン、住宅、防災等の分野を含む総合的な空間計画（物的環境を形成・再生するための目標・方針・実現施策を含む計画）を策定することを想定する。ただし、人口のトレンドは 10 年後まで変わらないこととし、この計画は日本の現行の法制度の下で策定することとする。

この空間計画を策定するにあたって、(1)計画の体系とその法的位置づけ、(2)計画の内容構成、(3)策定体制、(4)策定プロセスについて留意すべき点を説明しなさい。全体として 2000 字以内で解答すること。自作の図（手書きのものは認めない）を用いても良いが、図中の文字数も文字数制限に含めることとする。図については、文献またはウェブサイトからコピーしたものを貼り付けたり、加工して挿入したりすることは認めない。

以上

都市工学専門 2

あなたは、東京都内を対象として、休日の外出を促すための都市計画的方策の可能性を検討することを目的に、日常的な休日において外出が多く見られる物的・社会的な環境条件を分析しようとしている。以下の問いに答えなさい。ただし、「日常的な休日」とは、3日以上の子休や長い休暇でなく、毎週あるような休日を目指す。また、解答において気象や感染症の影響を考慮する必要はない。

なお、答案には自作の図表（手書きのものは認めない）を挿入してもよい。文章量は最大で計 40 行程度とし、図表を含めて解答用紙 2 ページ以内に収めること。

- (1) 人の休日の外出の程度を測るための指標をいくつか挙げ、それぞれのデータの収集方法と、各指標を用いることの利点・欠点や留意点について論じなさい。データの収集方法について、既存のデータを活用できると考えられる場合はその名称を挙げて援用してもよい。
- (2) 人の休日の外出の程度に影響しうる要因と、それを直接的または代理的に測るための指標として考えられる変数を、適宜分類・整理して挙げなさい。
- (3) (2) で挙げた変数に関するデータを収集する際の手法と留意点について論じなさい。既存のデータを活用できると考えられる場合はその名称を挙げて援用してもよい。
- (4) 人の休日の外出の程度と(2)で挙げた要因の間の関係を分析する際の手法と留意点について論じなさい。

以上